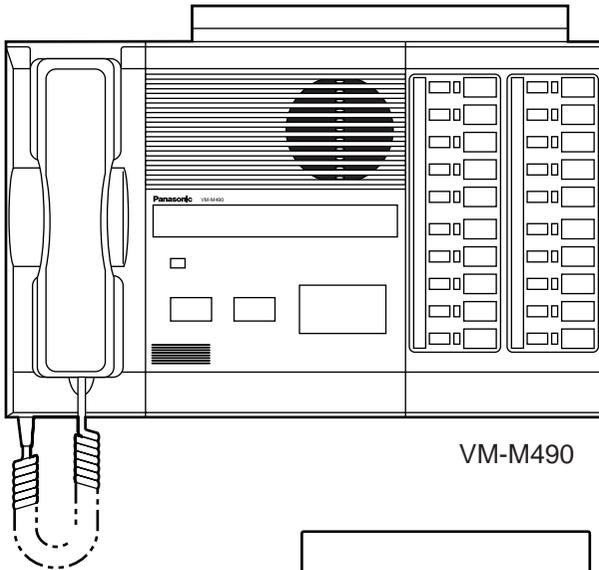


Panasonic

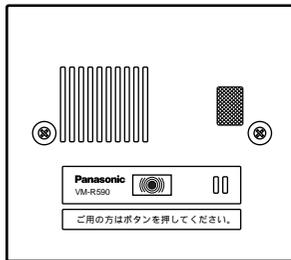
SSインターホンシステム

取扱説明書 工事説明付き

品番 VM-M490 (親機)
VM-R590 (子機)



VM-M490



VM-R590

保証書別添付

お買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

安全上のご注意	2
各部の名前と働き / 付属品	4
使用上のお願い	6
<hr/>	
子機の使いかた	7
子機から呼ばれたとき	8
2カ所以上から同時に呼び出されたとき	10
通話中に呼び出されたとき	12
子機を呼び出して通話するとき	14
呼び出す前に予鈴音を送出したいとき	16
一斉放送するとき	18
一斉放送する必要がない子機があるとき	19
選局一斉放送するとき	20
<hr/>	
工事作業安全上のご注意	22
配線方法	24
取付方法	25
点検・調節方法	26
<hr/>	
仕様	27
保証とアフターサービス	裏表紙

はじめに

操作のしかた

工事説明

その他

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

異物を入れない



水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因となります。

禁止

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

水などをかけない



発熱や火災の原因となります。

禁止

分解・改造しない



感電の原因となります。

分解禁止

修理や点検は、販売店にご連絡ください。

煙が出ている、異常に熱い、変な臭いがする時は、事故防止のため使用しない



火災や感電の原因となります。

禁止

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

コンセントや配線器具の定格を越える使いかたや、交流100V以外での使用はしない



たこ足配線等で、定格を越えると発熱による火災の原因となります。

禁止

⚠ 警告

保守・点検・交換時は電源コードを抜く



禁止

感電の原因となります。

販売店へご依頼ください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない



禁止

傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因となります。

コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。

電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグを根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



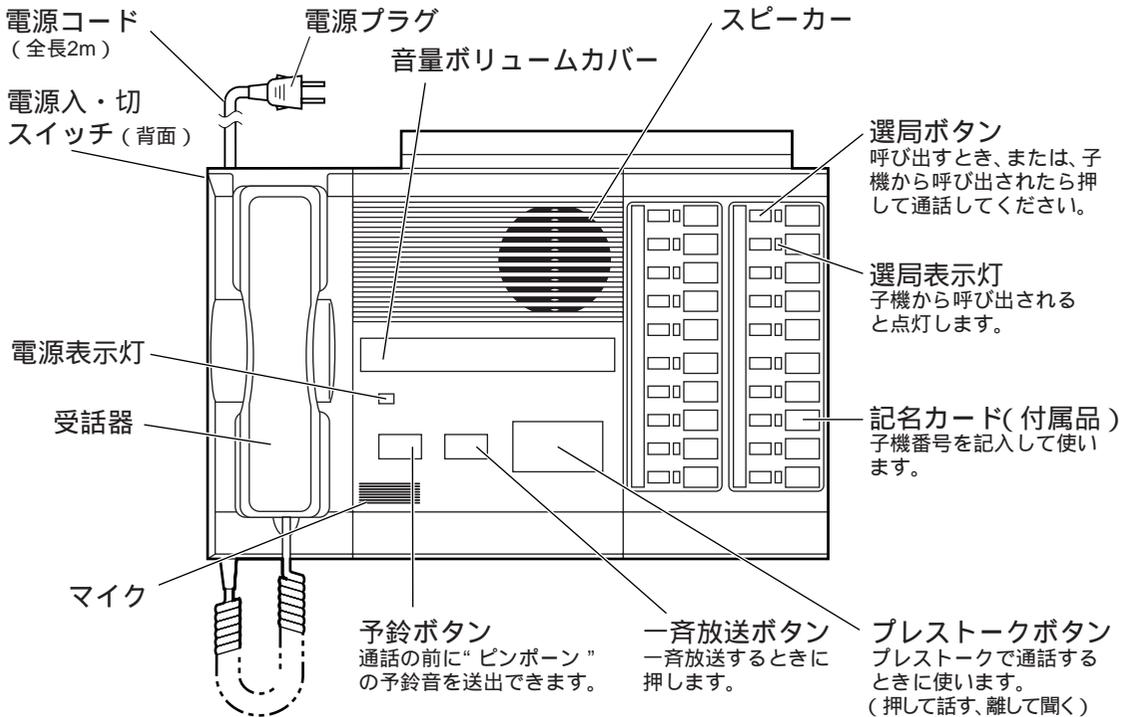
電源プラグを抜く

コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

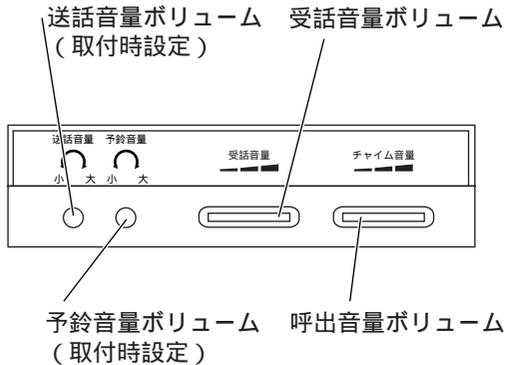
抜くときは電源プラグを持って抜いてください。

各部の名前と働き / 付属品

VM-M490 (親機)



音量ボリュームカバー 内部



付属品

記名カード	1式
取扱説明書	1
保証書	1
ヒューズ (5A)	1
ヒューズ (3A)	1

ご使用前に

電源スイッチを入れてください。

電源表示灯が点灯しているかどうかを確認してください。電源スイッチは背面部にあります。電源スイッチを「入」にしてから約5秒後に使用できます。

受話器を所定の位置におさめた状態で、電源を入れてください。

音量確認をしてください。

送話音量・予鈴音量・受話音量・呼出音量を子機で確認してください。聞きにくい場合は、音量ボリュームカバーを開け、個々に調節してください。

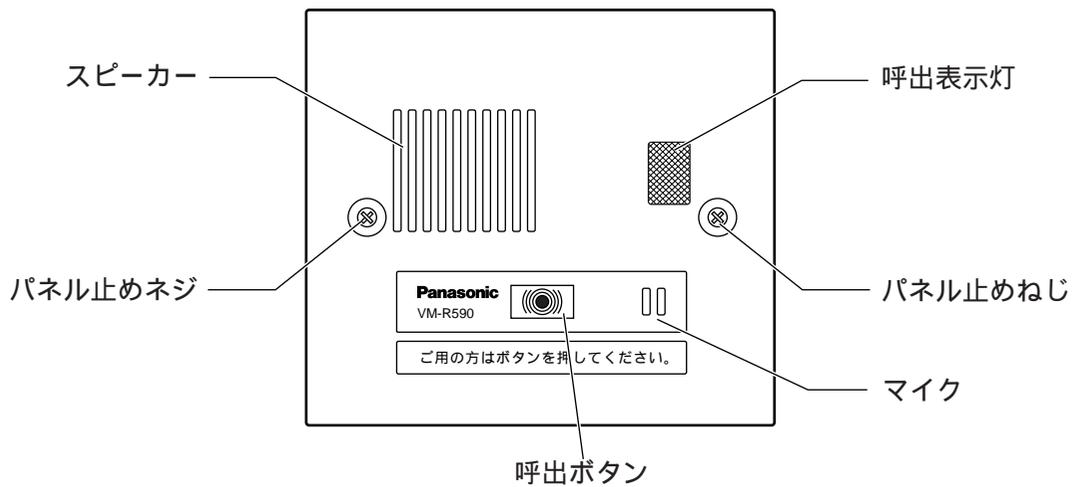
調節方法

送話音量・予鈴音量：送話（予鈴）音量ボリュームをドライバーで回転させて調節します。



受話音量・呼出音量：受話（呼出）音量ボリュームをスライドさせて調節します。

VM-R590 (子機)



付属品

- 木ねじ 3.8mm × 20mm 4本
- 小ねじ 4mm × 25mm 4本

使用上のお願い

ご使用の前に

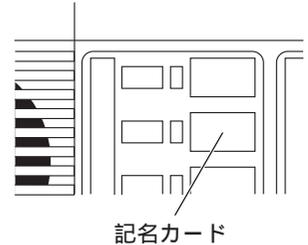
4ページの「ご使用の前に」をお読みください。

子機番号の記入のしかた

記名カード（付属品）の上部を押して本体からはずしてください。

記名カードの入れかた

1. 本体の記名カード部分に、シャープペンなどを差し込みカバーを取る
2. 記入した記名カードを入れ、カバーを元にもどす



子機について

子機の近くに磁石を置かないでください。
（誤って呼び出しがかかる原因となります。）

お手入れについて

電源を切り、乾いたやわらかい布でふいてください。ほこりが取れにくいときは、薄めた台所用洗剤（中性）をやわらかい布に染み込ませ、よくしぼり軽くふいてください。

ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

保守契約について

長期間円滑にお使いいただくためには、定期的に保守点検をする必要があります。定期的な保守点検を受けるために、機器サービス会社と保守契約を結ぶことをお勧めいたします。

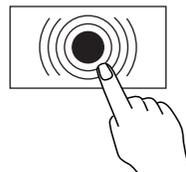
保守契約については機器購入先にご相談ください。

子機の使いかた

親機を呼び出すとき

1 呼出ボタンを押す

呼出表示灯が点灯します。応答があるまでは、呼出ボタンから手を離しても、呼び出しを続けます。



2 応答があったらそのまま通話する

親機から応答があると呼出表示灯は消灯します。

お願い

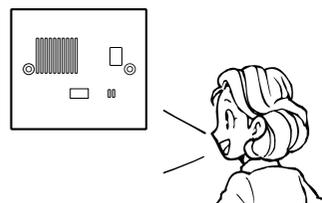
子機側で親機と通話中に呼出ボタンを押すと、通話が中断されますので、通話中は押さないでください。

親機から呼び出されたとき

子機に向かって応答する

お願い

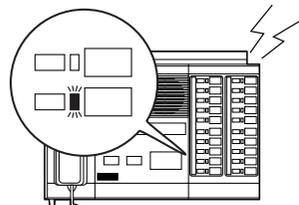
できるだけ子機に近づいて応答してください。



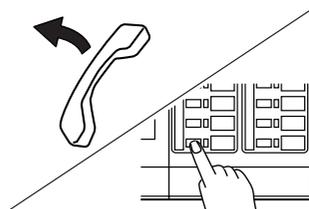
子機から呼ばれたとき

受話器による通話

1 選局表示灯が点灯し、呼出音が鳴る

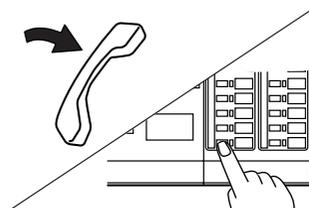


2 受話器をあげ、選局ボタンを押して通話する



3 通話終了後、受話器をおき選局ボタンを押してもどす

選局表示灯が消灯します。



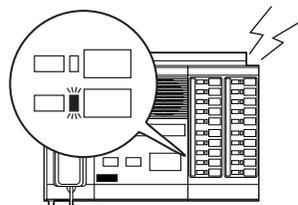
お願い

通話終了後、必ず選局ボタンを元にもどしてください。

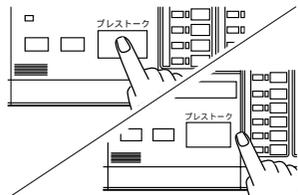
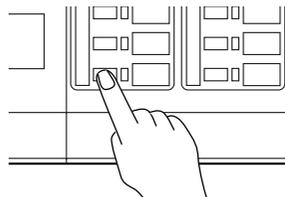
子機から呼び出されても呼出音が鳴りません。

プレストークによる通話

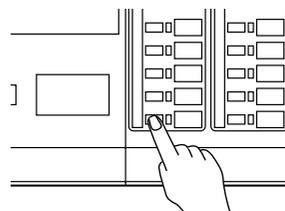
1 選局表示灯が点灯し、呼出音が鳴る



2 点灯している選局ボタンを押し、プレストークボタンを操作して通話する
(押しながら送話、離して受話)



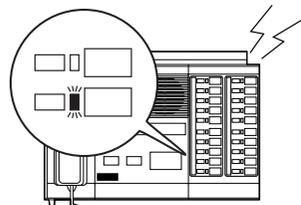
3 通話終了後、選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。



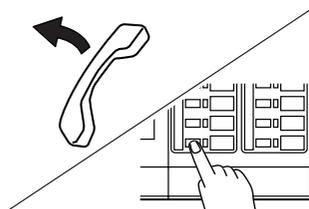
2カ所以上から同時に呼び出されたとき

受話器による通話

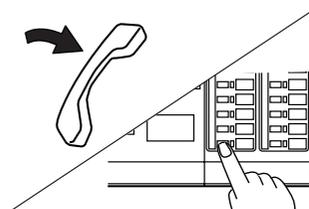
- 1 呼び出し元の子機に対応する選局表示灯が点灯し、呼出音が鳴る



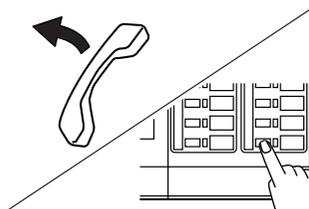
- 2 受話器をあげ、通話したい子機を選局ボタンで選局し、通話する



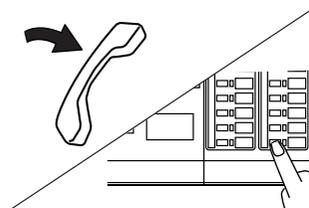
- 3 通話終了後、受話器をおき選局ボタンを押す
選局表示灯が消灯します。
(次の)呼出音が鳴ります。



- 4 次に受話器をあげ、選局ボタンで子機を選択し、通話する



- 5 通話終了後、受話器をおき選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。
さらに呼び出しがある場合は上記操作を繰り返します。



お知らせ

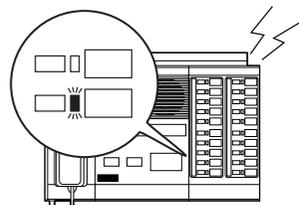
上記の手順3、4では、以下の操作をすることもできます。

(手順3) 通話終了後、受話器を置かずに選局ボタンを押してもどす。

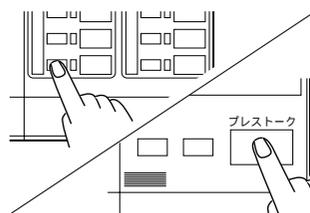
(手順4) 受話器をあげたまま、選局ボタンで子機を選択し、通話する。

プレトークによる通話

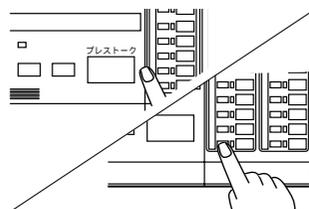
- 1 呼び出し元の子機に対応する選局表示灯が点灯し、呼出音が鳴る



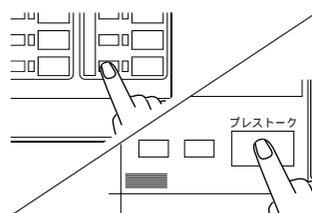
- 2 通話したい子機を選局ボタンで選局し、プレトークボタンを操作して通話する（押しながら送話、離して受話）



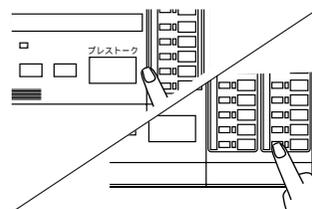
- 3 通話終了後、選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。
（次の）呼出音が鳴ります。



- 4 次に通話したい子機を選局ボタンで選局し、プレトークボタンを操作して通話する（押しながら送話、離して受話）



- 5 通話終了後、選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。
さらに呼び出しがある場合は上記操作を繰り返します。



通話中に呼び出されたとき

受話器による通話

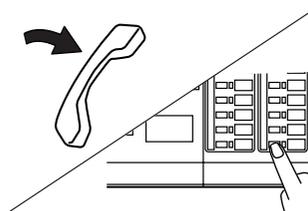
- 1 呼び出し元の子機に対応する選局表示灯が点灯

呼出音は鳴りません。

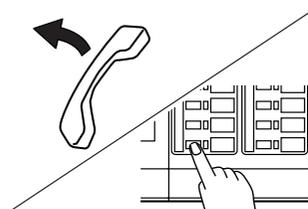


- 2 通話終了後、受話器をおき、通話していた子機に対応する選局ボタンを押す

選局表示灯が消灯します。
(次の)呼出音が鳴ります。

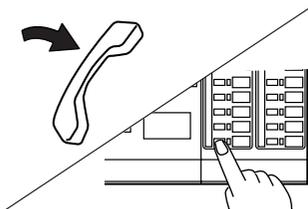


- 3 次に受話器をあげ、呼び出し元の子機に対応する選局ボタンを押して通話する



- 4 通話終了後、受話器をおき、選局ボタンを押してもどす

選局表示灯が消灯します。



お知らせ

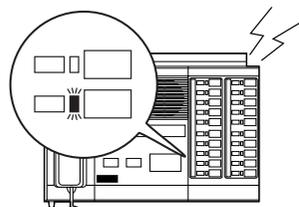
上記の手順3、4では、以下の操作をすることもできます。

- (手順3) 通話終了後、受話器を置かずに選局ボタンを押してもどす。
- (手順4) 受話器をあげたまま、選局ボタンで子機を選択し、通話する。

プレストークによる通話

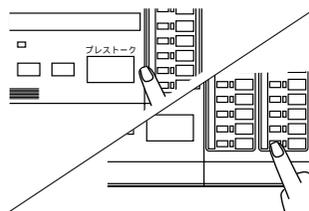
- 1 呼び出し元の子機に対応する選局表示灯が点灯

呼出音は鳴りません。

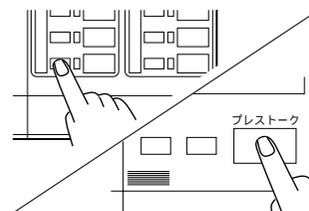


- 2 通話終了後、通話していた子機に対応する選局ボタンを押す

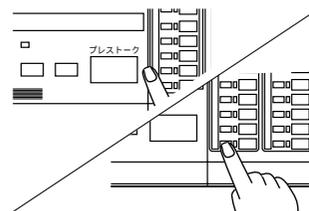
選局表示灯が消灯します。
(次の)呼出音が鳴ります。



- 3 次に、呼び出し元の子機に対応する選局ボタンを操作して通話する
(押しながら送話、離して受話)



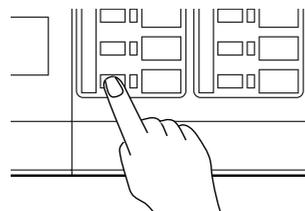
- 4 通話終了後、選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。



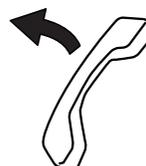
子機を呼び出して通話するとき

受話器による通話

- 1 呼び出す子機の選局ボタンを押す
選局表示灯が点灯します。



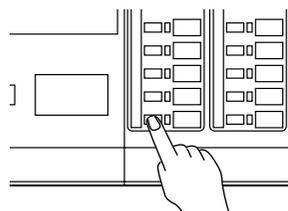
- 2 受話器をあげて通話する



- 3 通話終了後、受話器をおく



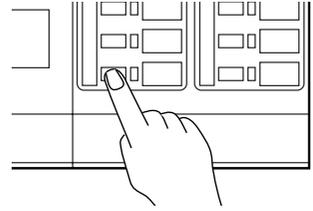
- 4 選局ボタンを押してもどす
選局表示灯が消灯します。



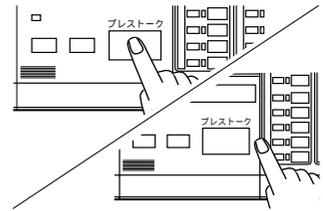
プレストークによる通話

1 呼び出す子機の選局ボタンを押す

選局表示灯が点灯します。

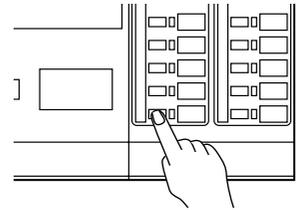


2 プレストークボタンを操作して通話する (押しながら送話、離して受話)



3 通話終了後、選局ボタンを押してもどす

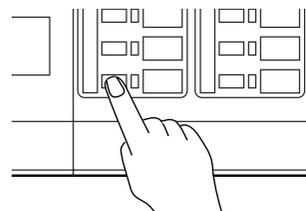
選局表示灯が消灯します。



呼び出す前に予鈴音を送出したいとき

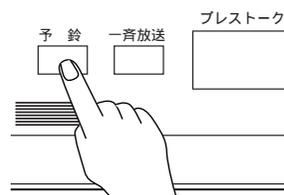
受話器の場合

1 呼び出す子機の選局ボタンを押す



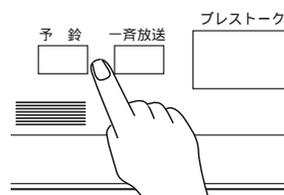
2 予鈴ボタンを押す

予鈴ボタンを押している間、呼び出された子機から予鈴音が鳴ります。

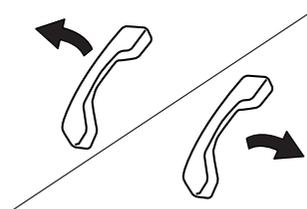


3 予鈴ボタンから手を離す

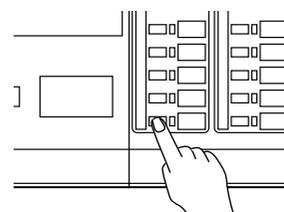
予鈴音が止まります。



4 受話器をあげて通話し、通話終了後受話器をおく



5 選局ボタンを押してもどす

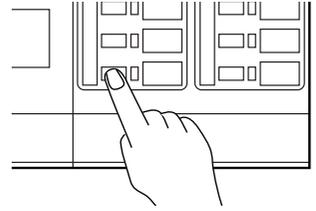


お知らせ

予鈴ボタンを押している間は、通話できません。

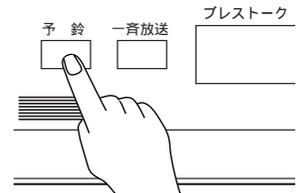
プレストークの場合

1 呼び出す子機の選局ボタンを押す



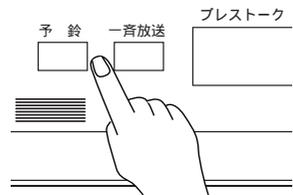
2 予鈴ボタンを押す

予鈴ボタンを押している間、呼び出された子機から予鈴音が鳴ります。

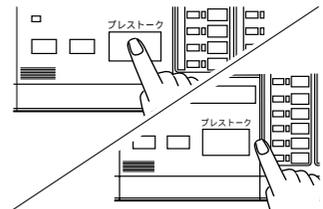


3 予鈴ボタンから手を離す

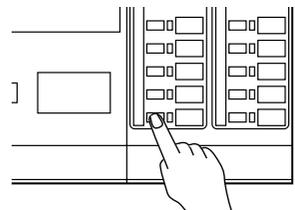
予鈴音が止まります。



4 プレストークボタンを操作して通話する



5 通話終了後、選局ボタンを押してもどす



お知らせ

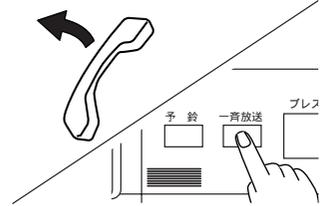
予鈴ボタンを押している間は、通話できません。

一斉放送をするとき

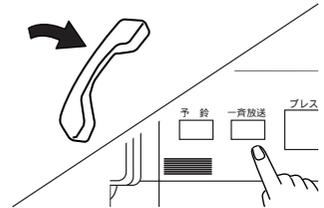
一斉放送中は子機との通話はできません。

受話器の場合

- 1 一斉放送ボタンを押しながら、受話器を取って放送する

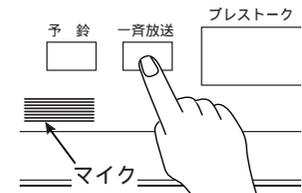


- 2 一斉放送ボタンを離し、受話器をおく



プレストークの場合

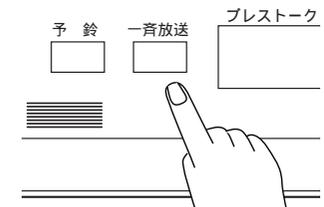
- 1 一斉放送ボタンを押しながら、マイクに向かって放送する



お願い

できるだけマイクに近づいて放送してください。

- 2 一斉放送ボタンを離す

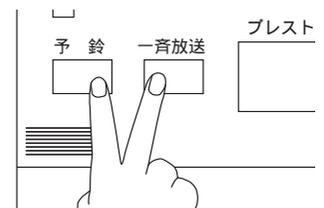


一斉放送の前に予鈴音を送出したいときは

➡一斉放送ボタンと予鈴ボタンを同時に押します。

お知らせ

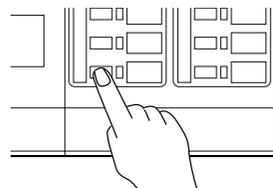
予鈴ボタンを押したまま、放送することはできません。



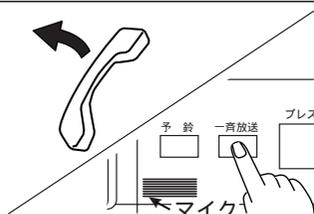
一斉放送をする必要がない子機があるとき

受話器の場合

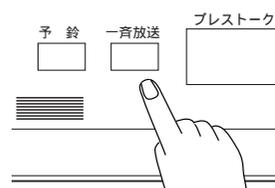
1 放送を流す必要がない子機の選局ボタンを押す



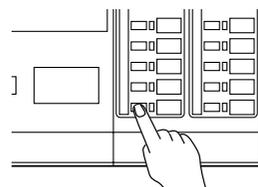
2 一斉放送ボタンを押しながら、受話器を取って放送する



3 一斉放送ボタンを離し、受話器をおく



4 選局ボタンを押してもどす



プレストークの場合

1 放送を流す必要がない子機の選局ボタンを押す

2 一斉放送ボタンを押しながら、マイクに向かって放送する

お願い

できるだけマイクに近づいて放送してください。

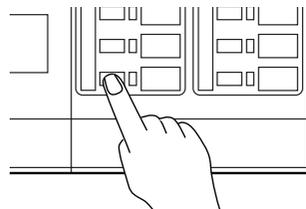
3 一斉放送ボタンを離す

4 選局ボタンを押してもどす

選局一斉放送するとき

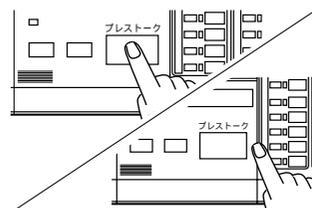
任意最大10局まで選局一斉放送ができます。
一斉放送中は子機との通話はできません。
受話器では選局一斉放送はできません。

1 放送したい子機の選局ボタンを押す

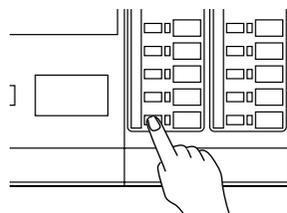


2 プレストークボタンを操作して放送する

プレトークボタンで話している間は、手順1で選局した子機からの音が聞こえます。



3 選局放送が終わったら、選局している全ての選局ボタンを押してもどす



工事説明

工事作業安全上のご注意

配線方法

取付方法

点検・調整方法

工事作業安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
---	--------------------------------------

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

<p>工事は販売店に依頼する</p>  <p>工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。</p>	<p>床上配線でふまれる恐れのある場合は、ワイヤープロテクターで保護する</p>  <p>ショートし火災の原因となります。</p>	<p>壁取付時、重量に耐える指定の取付方法で取り付ける</p>  <p>ゆるみやはずれで落下し、事故の原因となります。</p>
<p>指定以外のヒューズは使用しない</p>  <p>指定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。 禁止</p> <p>電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店にご相談ください。</p>	<p>電源はAC100Vを使用する</p>  <p>指定以外の電圧や電源で使用すると、火災や感電の原因となります。</p> <p>電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店にご相談ください。</p>	<p>電源はAC100Vを使用する</p>  <p>感電の原因となります。 禁止</p> <p>電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店にご相談ください。</p>

警告

指定以外の別売機器や、
互換性のない機器は接
続しない



火災や感電の原
因となります。

禁 止

水や医薬品のかかる場
所、湿気やホコリの多
い所に置かない



火災や感電の原
因となります。

禁 止

不安定な場所に置かな
い



バランスがくず
れて倒れたり、
落下してけがの
原因となります。

禁 止

操作パネルを開けると
きは、コンセントから
電源プラグ抜く



感電の原因とな
ります。

電源プラグ
を抜く

配線方法

お願い

工事を行う前に必ず電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、工事作業安全上のご注意（22～23ページ）をよく読んで、その指示に従ってください。

電源の接続

電源コードは必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- (1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）に容易に手が届くようにしてください。
- (2) 接点距離が3.0mm以上有する分電盤のブレーカーに接続してください。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源の全ての極が遮断できるものを使用してください。

配線について

各子機から親機までのV線は、必ず単独配線とし、親機側のV端子は共通端子になります。（子機側でV線を共通にすると漏話等の不具合を生じます）

親機から見た一般配線は2n（nは局数）

親機～子機間の線路抵抗は、ループ値20以下にしてください。

線 経	0.65mm	0.9mm
距 離	200mまで	300mまで

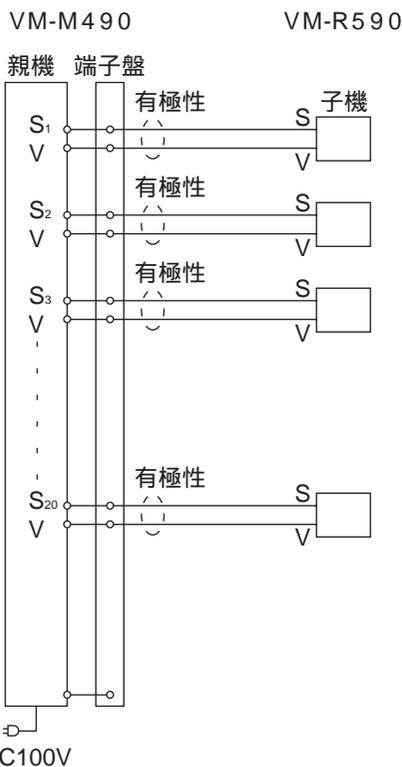
配線がAC100Vと平行する場合は30cm以上離してください。（電気設備に関する技術基準204条）また、AC100V以外の他の配線と平行になるときも、誘導や短絡事故を防止するため30cm以上配線の間隔を離してください。

S、Vの配線はペア線を使用してください。（CPEV線）

配線が屋外になる場合は、保安器（アレスタ）を使用してください。

配線は親機と接続する前にショートや開放していないか点検（26ページ）してください。

配線系統図

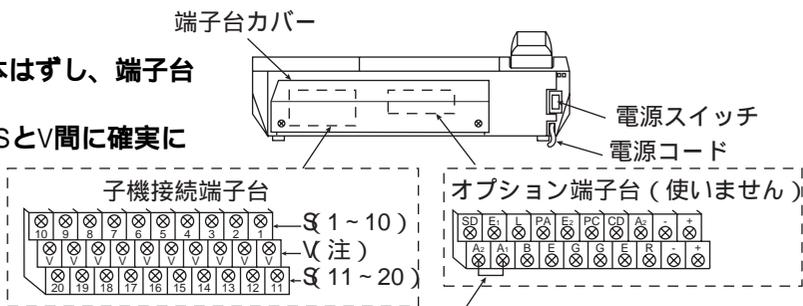


接続手順

1. 本体背面のねじを2本はずし、端子台カバーを取りはずす
2. 子機からの配線材をSとV間に確実に接続する

子機1（～10）
と子機11（～20）
のV端子は共通です。

3. 端子カバーを元のように取り付ける



A₁、A₂間のジャンパーは、はずさないでください。（誤動作の原因となります。）

取り付け方法

お知らせ

親機、子機ともに防爆仕様ではありません。

VM-M490 (親機)

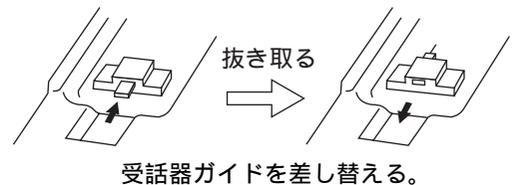
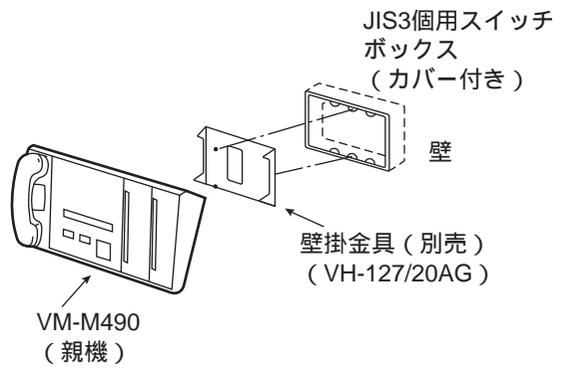
別途、別売の壁掛金具 (VH-127/20AG) を取り付けることにより壁掛けが可能です。その場合、受話器受け台の受話器ガイドを差し替えてください。

(出荷時は卓上形用になっています)

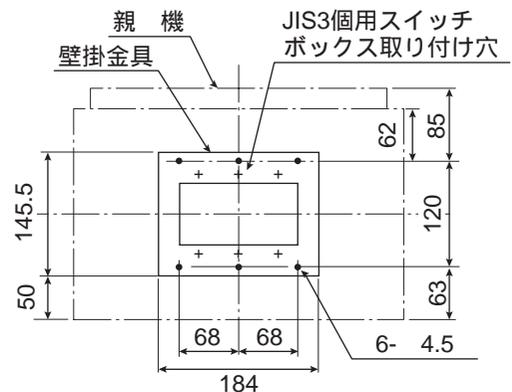
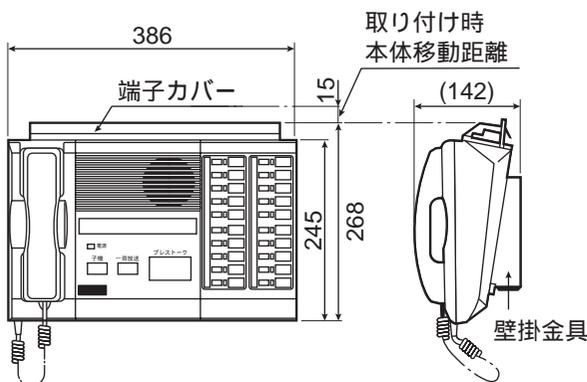
1. 本体を壁掛金具へ引掛ける
2. 引掛けた後下へ引く

お願い

取り付け後、受話器を受け台に置いた状態で電源スイッチを入れてください。



取り付け穴寸法 (単位 mm)



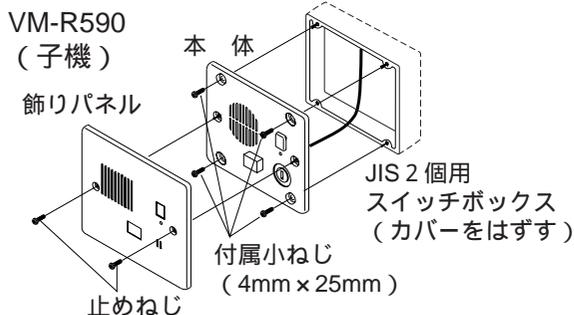
VM-R590 (子機)

JIS 2 個用スイッチボックスカバー付きのカバーをはずして取り付けます。

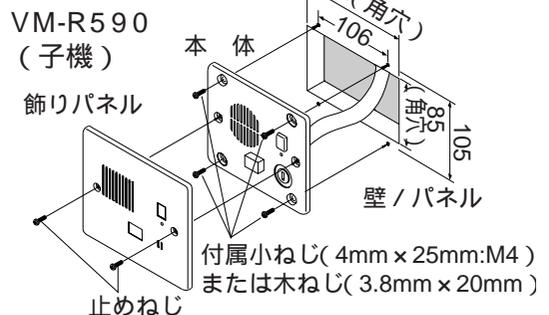
お願い

指定の子機以外は接続しないでください。
子機の近くに磁石を置かないでください。
(誤って呼び出しがかかる原因となります。)

《スイッチボックスを使用する場合》



《直接取り付ける場合》



親機からの配線材をSとVの間に確実に接続する

点検・調節方法

子機側の配線がすべて終わりましたら親機に接続する前に配線の点検をしてください。

点検の方法

- (1) テスターをオーム計(レンジ1k ~ 10k)にして同一子機からの2線(S、V)に当てたとき1度振れ、もとにもどれば配線は正常で、右に振れたままのときはテスターのリードを逆にしてください。右に振れたままであれば配線がショートしています。又全然振れなければ配線が開放しています。ショートや開放の配線があったら正常になるよう処置した後、親機と接続してください。

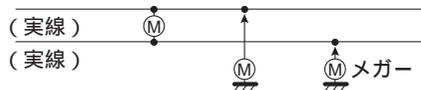
お知らせ テスターを一度当てた後は正常でも振れません。

- (2) すべての点検を完了後、親機と接続し、各局ごとに呼び出し、通話テストを行ってください。

線間の絶縁チェック

実線と実線、アースと実線間の絶縁を250~500Vメガーを用いて調べ、いずれの場合も100M 以上あること。

お願い 親機に接続する前に、絶縁チェックをしてください。



送話音量・予鈴音量の調節

「各部の名前と働き」(4ページ)を参照の上、調節を行ってください。

ヒューズの交換

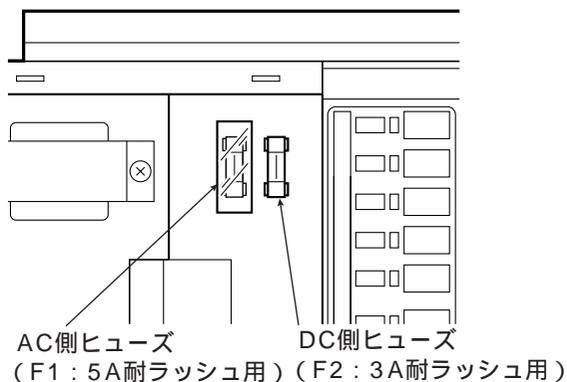
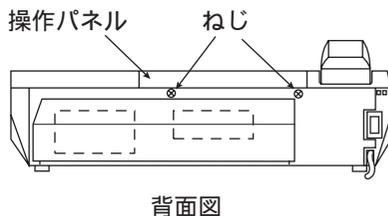
1. 背面のねじを2本はずす
2. 操作パネルを開ける

警告

操作パネルを開けるときは、コンセントから電源プラグを抜く

- 感電の原因となります。

3. ヒューズを交換する
4. 操作パネルを元のように取り付ける



仕様

電源電圧	AC100 V 50/60 Hz	通話方式	同時通話方式 / プレストーク式
消費電力	待受時5 W, 通話時11 W 最大時18 W	呼出方式	電子音(チャイム)及び発光ダイオードによる呼出表示
通話出力	最大 300 mW	通話路	1通話路
一斉放送出力	最大 300 mW/局	配線方式	親機~子機間 単独2線配線 (有極性)
選局放送出力	最大 300 mW/局 (最大10局まで)	外觀材質	親機 難燃ABS樹脂・塩ビ鋼板 子機 ABS樹脂・ステンレスパネル
外形寸法	高さ268×幅386×奥行117 mm (親機) 高さ140×幅160×奥行42 mm (子機)	外觀色調	親機 パニラホワイト (近似マンセル5Y9/1) 子機 ステンレスクリア塗装
		質量	5 kg (親機) 0.3 kg (子機)

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は...

まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

修理を依頼される時

お買い上げの販売店へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理させていただきます。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

ただし、SSインターホンシステムの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後7年です。

（注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お 買 い 上 げ 日	年 月 日	品 番	VM-M490、VM-R590
販 売 店 名		☎()	-
お 客 様 ご 相 談 窓 口		☎()	-

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVシステム事業部

AA0399-1030
C8QA5128BN

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600番地 ☎ (045)-932-1231（代表）

© Matsushita Communication Industrial Co.,Ltd.（松下通信工業株式会社）2000